

# 事業所防災リーダー通信2025 Vol.2

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせなどを定期的に発信します。今回は、実際の事業所でどのような防災に取り組んでいるのかを2社分、ご紹介します。皆さんも参考にしてみましょう。

## 【事例紹介】株式会社シード



### 防 本社ビル建て替えと共に、BCPを充実化

文京区本郷にある本社ビルの建て替えにあたり、BCPを充実化しました。

#### 備蓄品

- 防災備蓄品保管のための専用室を用意。
- 約200人・3日分の備蓄を用意。
- 別途、ウォーターサーバーのタンク在庫を平時の1ヵ月分、確保。
- 災害時無料自販機を4台導入。

本社2階の約3分の1(約100㎡)を、帰宅困難者受け入れスペースとして**文京区と協定を締結**する予定。(残りのスペースが従業員の待機エリア)

#### 事業所概要

##### 株式会社シード

- 連結従業員数:1,337人(2024年3月末日現在)
- 業務内容:コンタクトレンズ事業、コンタクトレンズケア事業

#### 電力確保

- 屋上には**250kVAの発電機**を設置。燃料補給なしで**最大48時間の稼働**が可能。→その間に他拠点へ災害対策本部機能を移譲するなどを検討する想定。
- 別途**1500W(自立運転時)の太陽光パネル**も用意。→従業員の私用スマホの充電などの用途として計画。

将来的には社有車を**電気自動車**や**プラグインハイブリッド車**とすることを検討。新本社ビルには、機械式駐車場に充電設備を備えている。停電発生時には、**社有車から電力を取る**ことも想定している。



## 【事例紹介】株式会社OCS



### 防 自分ごとにするため、避難訓練を改革

これまで、「消火器の使い方を消防士に教わる」などの断片的な訓練を行っていましたが、思い切って今年は自分たちに必要な訓練プログラムを一から作り、実施しました。

**参加者** 各部署から2~3人ずつの代表者が参加。

#### PART I TSG Survival Tour (2月19日実施)

まずは講義を行い、その後、どこに消火器や避難扉、備蓄があるのか、2班に分かれて**社屋ツアー**を行いました。訓練後に、自部署に戻って非常用照明を確認するなど、宿題も実施しました。

#### PART II TSG 避難訓練 (3月4日実施)

実際に避難ルートを通して8階から避難訓練をしたり、AEDや簡易担架などを実際に使ってもらいました。

参加者から、「普段見られない防災設備や備蓄品を確認でき、安心できた」との声が聞かれ、実行して良かったと思いました。今後は、OCSでの**モックディザスター訓練**を計画しています。



▲講義と社屋ツアーの様子(屋上の自家発電機を見学)

- 社屋:Tokyo Skygate (略称:TSG) 築8年
- 耐震構造。地下60mまで杭を打っている。
- ANAグループ全体で防災・BCPを推進している。2024年度は、ANAグループ約40社が一丸となり、2種5回の防災訓練を実施。(参加者:各回約100人)
- OCSでは、700人・3日分の備蓄、EV内災害備用品キャビネットを用意するなど積極的に取り組んでいる。



▲社屋に掲示されている避難経路と、避難訓練の様子

**モックディザスター訓練**とは?  
災害を想定した机上訓練。模擬災害体験演習。

#### 事業所概要

##### 株式会社 OCS (ANAグループ企業)

- 従業員数:520人(2025年3月1日現在)
- 業務内容:国際物流

## 東京都からのお知らせ

東京都では事業所防災リーダー事業を実施しております。どなたでも無料でご登録いただけます。よくある質問をまとめておりますので、下記のリンクまたはQRコードからぜひご覧ください。

[https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default\\_project/page/001/022/973/yokuaruotoiawase.pdf](https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/022/973/yokuaruotoiawase.pdf)

